

千葉県小中学校体育連盟の組織・運営について

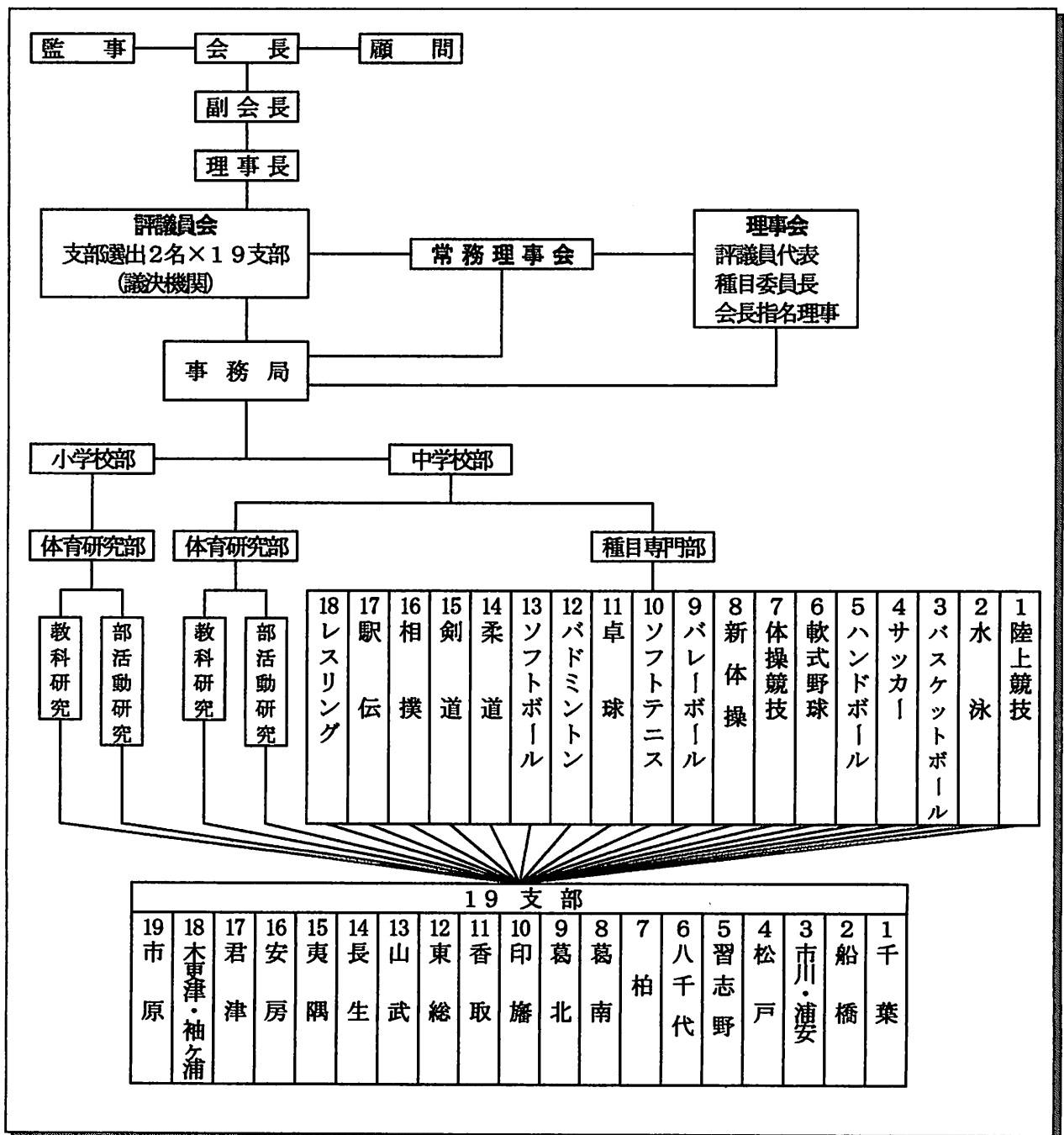
千葉県小中学校体育連盟
理事長 鈴木 雄二

1 はじめに

千葉県小中学校体育連盟は昭和23年に設立。60余年にわたり本県の小・中学校体育の振興と児童・生徒の体力の向上、スポーツ精神の涵養を目的に「スポーツの普及発展と競技力の向上」「学校体育の研究と実践」に取り組んできた。

この間、千葉県教育委員会をはじめ市町村教育委員会との連携を図りながら、その指導・助言を仰ぎ、時代の変化や社会的な要求への対応を進めながら今日に至っている。

2 千葉県小中学校体育連盟の組織



本連盟の組織は18競技の専門部と研究部を設置し（小学校部は研究部のみ）、各競技大会や研究活動の企画・運営を行っている。また、県内に19支部を編成し、競技専門部・研究部は各支部の代表により構成している。

本連盟の全体的な事業計画及び予算編成などは基本計画を理事会で協議・検討し、評議員会の最終議決により実施することとしている。

評議員会は各支部から2名の代表により構成している。理事会については各競技専門部委員長及び評議員の代表により組織しているが、県教育委員会並びに千葉市教育委員会の担当指導主事を指名理事に任命し、必要に応じその指導・助言を仰ぐことにより、会を円滑かつ公正に運営している。

3 千葉県小中学校体育連盟の運営

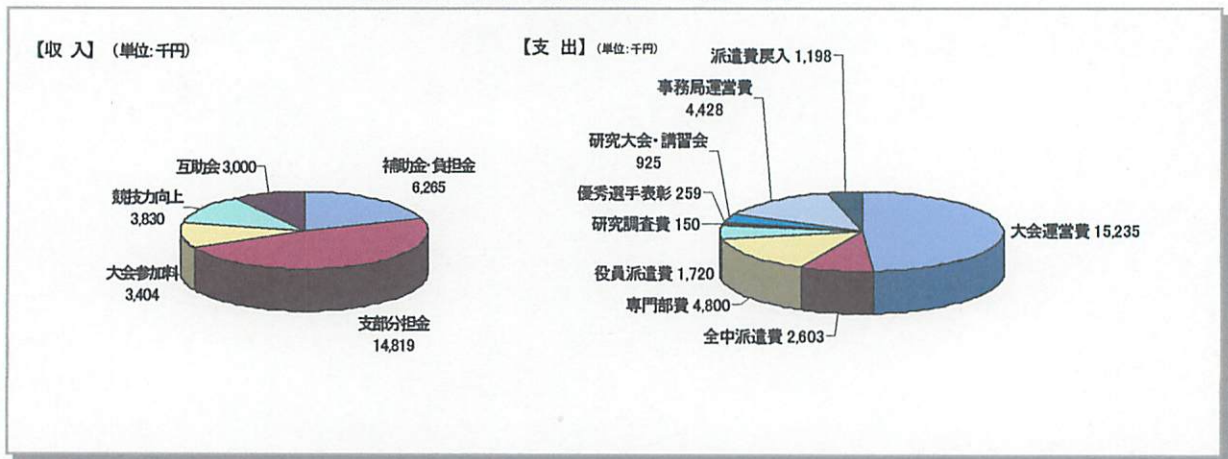
(1) 財政・予算について

① 全体収支の概要

本連盟の全体予算及び収支の内訳については、平成25年度では（表-1）のとおりとなっている。総額で約3,100万円の予算規模であるが、これには後述する全国中学校体育大会選手派遣事業補助金も含まれており、同補助金は全国中学校体育大会の開催地や出場選手数により変動するため、これを除いた例年の予算規模は約2,800万円となる。

収入については、千葉県教育委員会を中心とした行政機関からの負担金、各種大会参加料、そして県内各支部からの分担金に大別できる。分担金は県内19支部より基本分担金の296,900円その他、1校あたり11,660円の学校数割分担金、1学級あたり800円の学級数割分担金を徴収し、平成25年度は約1,480万円と総収入の約50%を占めている。

平成25年度 収支内訳 (表-1)



② 全国中学校体育大会選手派遣事業

(公財)日本中学校体育連盟主催の全国中学校体育大会への出場選手（登録選手）に対し、往復に要した交通費のうち、予算の範囲内で実費の半額を上限に補助するもので、県教育委員会の負担金により運用している。

市町村教育委員会などによって同様の補助制度を実施している支部もあり、その場合、選手は本連

(表-2)

年度	開催ブロック	補助金申請数	事業費(円)
H18	四国	272	6,698,726
H19	東北	295	7,735,774
H20	北信越	389	4,123,015
H21	九州	304	7,767,400
H22	四国	328	6,469,900
H23	近畿	285	4,004,400
H24	関東	329	1,111,240
H25	東海	305	2,062,720

盟の派遣費と併せ交通費全額の補助を受けることとなる。

尚、直近8年間の実績は(表-2)のとおりである。

③千葉県競技力向上推進本部事業費

競技力向上推進本部は「千葉県体育・スポーツ振興条例」の内容に基づき、本県競技力の恒常的なレベルアップを図り、国内大会はもとより、オリンピック等の国際大会で活躍する選手を育成するなど、本県スポーツの一層の発展を期し、「スポーツ立県ちば」の実現に資することを目的に平成14年に設立された。

本連盟との関わりについては、主たる6事業の中の「ちばジュニア強化事業」となり、事業内容は(1)ジュニア選手強化(2)競技会開催支援(3)ジュニアコーチ養成支援(4)強化選手・指導者指定(5)その他推進本部が認めるもの、となっている。

平成18年に年間163万円が予算化され、本連盟事務局長の業務負担を軽減し、業務の効率を高め事業の円滑な推進を図るため、事務局に非常勤の職員を雇用することとした。また、各種目専門部に大会視察のための旅費として支給し、主に全国中学校体育大会を視察・分析することにより競技力の向上を図った。

平成24年には予算が380万円余りとなり、大会視察費の増額のほか各種目専門部には競技会支援費を支給、また、次年度及び次々年度の関東大会開催種目の専門部、経験の浅い若手の指導者を対象とした講習会を開催し、指導者の資質の向上を図ることとした。

④千葉県公立学校教職員互助会教育文化・スポーツ助成事業

平成23年度より一般財団法人千葉県公立学校教職員互助会から、千葉県における教育文化及びスポーツの振興発展を図ることを目的に、文化及び芸術の振興並びに教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養するための「教育文化・スポーツ団体助成事業」により年間300万円の助成を受けることとなった。

助成金は、各種目専門部に一律に支給しているが、専門部では強化練習会や強化選手の遠征費用などに活用し、競技力向上の一助としている。

(2) 競技力の向上

中学生年代の競技力の向上をはじめ運動部活動の充実、円滑な大会運営などは本連盟の大きな使命と認識しているが、これらのことには社会情勢や環境、本県の学校の実情などが大きく影響することとなる。

昭和60年以降、生徒数の大幅な減少による運動部活動への影響は全国的な課題であるが、本県においても運動部の削減や、生徒数の減少に伴う指導者の不足により、生徒の運動部活動の選択肢が限られ全体的な競技力に影響を与えている部分があると思われる。また、従来は水泳や新体操など、一部の個人種目に限られていた民間等のクラブでの活動は、近年、野球やサッカーなどの団体種目にも多くみられる。能力の高い生徒が自校の部活動に所属せず、民間のクラブで活動するケースがあり、運動部活動の競技力を低下させている一因となっているように思われる。

生徒の部活動の選択肢を増やし、意欲を保つために、部活動を基準にして学校を選択する方法もあるが、本県での現状は限られた一部の市町村にとどまっている。

一方、駅伝を含む陸上競技、ソフトテニス、剣道などの種目では指導者の努力や各専門部の組織的な取り組みにより高い競技力を保っている。

今後は、社会や学校の実情を一層捉え、行政や民間団体などとの連携を深める中で、種目や専門部の特性に応じた実践を進めていくことが重要であると思われる。

(3) 研究活動

学校体育の研究と実践はスポーツの普及発展と競技力の向上と併せ、本連盟の活動の大きな柱となっている。さらに、本連盟が小学校をも含めた組織にしている意義は研究活動の面

で特に大きく、小中の連携という点での効果が期待できる。

具体的な研究活動への取り組みは、前述の各支部から小中各1名ずつの部員により学校体育研究部を構成し実践している。

教科研究と運動部活動の研究を中核として、それぞれの内容を2年間のサイクルで研究しまとめるとともに、2年間のテーマを決め、それに応じた県内各地の先進的な取り組みを紹介している。

平成24～25年度は、「活力ある児童生徒を育む体育学習の在り方」を研究テーマに据え、小学校ではアンケートの実施・分析により体育学習を進めるうえで、先生方が感じる課題を明らかにし、その結果を受け、よりよい体育学習になるように、グループごとで資料づくりを中心とした研究を進めた。

また、中学校では学習指導要領の改訂にあわせ、体育学習における言語活動に焦点をあて、その課題を明らかにし、次年度以降の体育学習の改善に生かすこととした。

学校体育研究部として全体での部会は年間3回と限られているが、年度ごとに研究の成果を紀要にまとめ、県内の各小中学校に配布してその周知を図るとともに、研究内容への意見や反省を集約し次年度の研究に生かすこととしている。

年に1回開催している千葉県学校体育研究大会は千葉県教育委員会が中心となり、実行委員会を組織し企画・運営しているが、本連盟のほか高等学校体育連盟、千葉県教育研究会体育部会、千葉県高等学校教育研究会保健体育部会からの参画もあり、小中高の連携・連動のなかで共通目標に向けての研究の実践が進められている。

内容的には、1日の開催の中で、研究主題に関連のある講演と小・中・高それぞれで授業展開と分科会を行い研究を深めている。

過去10年間の研究主題、講演講師、参加人数は表-3のとおりである。

(表-3)

年	開催市町村	研究主題	講演講師	参加人数
16	南房総市	「健やかな体」をつくる体育指導の推進	鹿児島大学 教授 武隈 晃	557
17	千葉市	〃	東京大学大学院 教授 小林 寛道	667
18	八千代市	「健やかな体」をつくる体育指導の充実	順天堂大学 助教授 東根 明人	664
19	柏市	〃	国政研教育課程セ 調査官 佐藤 豊	567
20	八街市	「健やかな体」をつくるための体育指導の展開	順天堂大学 准教授 今関 豊一	591
21	大多喜町	〃	日本体育大学大学院 教授 高橋 建夫	477
22	市原市	活力ある児童生徒を育む体育学習の在り方	国際武道大学 教授 鈴木 和弘	533
23	習志野市	〃	横浜国立大学 教授 高橋 和子	556
24	流山市	活力ある児童生徒を育む体育学習の展開	東海大学 教授 小澤 治夫	584
25	匝瑳市	〃	国政研教育課程セ 調査官 石川 泰成	549

4 おわりに

関東中学校保健体育研究協議会において千葉県小中学校体育連盟本部の提案は平成21年以来となる。この間、本連盟の活動方針及び内容等に大きな変革はないが、改めて前回の提案資料や他の都県の資料に目をおし、また、組織や運営について現状を整理することにより、課題や問題点を多少なりとも掘り下げることができたと考える。

特に生徒数の減少は、財源の面をはじめ指導者の問題や競技力の面にも大きな影響を与えている。新たに実施した講習会などが解決に繋がるかは現在では未知数である。

今後も、常に現状を把握し問題点を明らかにすることにより、本連盟の目的である千葉県小中学校体育の振興と、児童・生徒の体力とスポーツ精神の涵養、そして競技力の向上を目指して活動していきたいと考える。